

◆ 練馬都税事務所長賞 ◆

「明日を支えるもの」

練馬区立開進第三中学校 3年 吉田 美咲

税金にはあまり良いイメージをもっていない。税金が高い、給料から税金が引かれるのはおかしい、税金の無駄使いはしないでほしい。私は税金についてあまり知らずに、表面的な部分だけを見ていた。そんな私が税金へのありがたみを感じたのは、今年の夏休み中のことだった。

私には小学二年生の従兄弟がいる。ある日本を借りるために区立図書館を訪れた。私も小さい頃は読書をしたり調べものをしたりするのによく利用していた図書館。子供から大人までもが本を開いて熱心に本と会話をしているかのようにその時、私は思えた。すると従兄弟は私に突然あることを聞いてきた。

「どうして図書館の本はお金も払わないで借りれるの？」と。私は図書館の本が無料で借りることができるのは当たり前だと思っていた。私は家に帰り調べてみることにした。

そこにはこう記されていた。「図書館は教育基本法で規定された社会教育施設。全ての国民が貧富等により利用に制約を受けることのないようにされている。」私はこれを受けて息をのんだ。ここに税金が使われているのかという感覚をつかんだ。図書館の建物、机やいすなどの設備、働く人の給料までも全てが税金で賄われていた。そこで私は他の税金の使われ方について調べてみた。すると、私にとって身近なものが沢山あった。小・中学校という義務教育期間中の学費、医療費、年金や道路設備などと使い道が沢山あることを初めて知った。

私はこれらを踏えて、どれだけ今の私が税金に支えられて日々生活を快適に送れているかが分かった。今年の十月より、高校生までを対象とした医療費の無償化が始まる。これもまた税金という制度があるからこそ成り立つものだと考える。これまでの私はニュース番組で取り上げられていた「増税や税金の無駄使い疑惑」といった、マイナスの部分のみに着目していた。しかし、納税という制度がどれだけ私達の毎日を支えていたかと考えてみると、やはりこの制度はなくてはならないものだ。先日、「年金が減ってきている」というニュースを見かけた。少子高齢化が進んできているこの世の中。このままでは社会保障の費用が増加し、その費用を負担する働き手が減少していくであろう。

私は今、税金により支えてもらう側の人間。学べる場の環境を整えるのに賄われている税金には感謝をしなくてはならない。私はあと三年後には学生を卒業する。その際からは納税者としてこの国を支えていきたい。この国には一億二千万人の人々が住んでいる。お互いが支え合える国になるためには税の意義をしっかりと理解してもらうことが大切だ。今の私ならば自信をもって従兄弟に税金について教えてあげることができる。少しでも多くの人に税金の大切さを知ってもらいたい。税金が私たちの明日を支えている。